



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成25年01月21日 第597号「週刊五十嵐レポート」

嫌われ役

昨年3月6日付、日経新聞スポーツ欄に工藤公康氏の「嫌われ役が強くなる」というコラムがあり、1982年から13年間で西部ライオンズがリーグ優勝11回の常勝と呼ばれた時代には“嫌われ役”がいたとのこと。

「強きものになるためには、自分自身が理解できずとも、やらされ、やり抜かなければいけないこともあると覚えてほしい。能力は他人に引き出してもらわねばどうしようもない場合がある。

嫌がられるとわかっていてもそれを言うのが監督たちの仕事。決して選手から好かれることが大事だと思わない」

企業の中でも規模が大きくなるにつれてこの“嫌われ役”という存在が必要になる。前職のコンサルティング会社には“嫌われ役”であるNO.2がいた。この“嫌われ役”こそ社長の右腕。強い会社にはこの“嫌われ役”がいる。

私は企業の再建のお手伝いをするこの“嫌われ役”をやる場合が多い。再建しようとする会社はいままでのやり方では結果が残せないため、新たな試みをするのが必然的に多くなる。「変化」である。いままで習慣を変えることになるので、社員たちの中では拒否反応が出てくる。また会社内の人員では過去のしがらみや人間関係等で言いたいことも言えない環境にある。この場合、外部の第三者が一番言いやすい。しがらみや人間関係もない期間限定の第三者が“嫌われ役”に適している。

会社を再建する(悪い回転から良い回転に変える)ということは習慣を変えることにもなるため、必ず「混乱」が起こる。良くなるためにはこの「混乱」を通過しなければならない。改革推進の人材を見つけ出し、徐々に人を巻き込んでいく。

会社が復活して業績が良くなっていけば「悪役」や「嫌われ役」になるのもいい。但し、仕事上でのことにかぎる。普段はやっぱり嫌われたくない。

ちょっと
気になる出来事

平成25年1月19日(土)、元横綱・大鵬死去の訃報。
私が小学校低学年までは、「巨人・大鵬・卵焼き」だった。
この後、玉の海、北の富士が台頭してきた。そして北の湖、輪島。

私が覚えている大鵬の取組みは、引退のきっかけになった大鵬 - 貴ノ花戦。一度も勝ったことのない貴ノ花(先代)が大鵬を寄り切って勝った。その後に大鵬が引退を発表。

32回の優勝。6連覇2回。45連勝。強い横綱でした。
72歳。今の時代では早い。
ご冥福をお祈りします。



一口メモ
成功の秘訣

人格は才能にまさる

たいした知識もなく、仕事もきわ立たず、判断力も能力も不足していながら、経営者としては害を及ぼさない人もいる。

しかし品性が高潔でない人は、いかに知識があり、才気縦横な人であっても組織に害を及ぼす。こういう人は、企業にとって最も貴重な人的資産を台なしにし、その精神をそこない、結局は業績を低下させてしまうものである。

経営者がなさねばならない仕事は学ぶことはできる・しかし、経営者が学びえないが、どうしても自ら身につけていなければならない資質が一つある。それは、天才的な才能ではなく、実に人の品性なのである。

(「現代の経営」)

ドラッカー経営名言集より

週刊五十嵐レポート 毎週月曜日発行 月刊五十嵐レポートダイジェスト
町コンランチエスター経営戦略塾「会社成功塾」 毎週日曜日 午前10時~12時。
町コン・ランチエスター経営戦略セミナー 毎月東京開催
㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 tigaras@attglobal.net

